

ディスコって最高だあ〜!

障がいがあるうがなからうがお構いなし。70年代、80年代のディスコミュージックを大音量でかけ、踊りまくる「ディスコパーティしようぜ!」というイベントが定期開催されているのをご存知ですか? 写真中央の安斉尚孝さんが24年前に仕掛けたイベントです。

安斉さんは17歳の高校2年生の時にバイク事故にあい、両足骨折、脳挫傷、心肺停止で数日間生死をさまよい、四肢麻痺、両目の視力を無くした状態で意識を取り戻しました。それまでは、音楽が好きで、両親にドラムセットの購入をせがむ青年でした。前向きになるのに長い時間かかりましたが、養護学校でいい先生に恵まれ、立ち直った安斉さんは、障がいを悩むより、できることを楽しもうと考えました。そして、車いすの障がい者でも受け入れてくれるディスコを求めて、都内のディスコをまわります。

しかしどこからもいい返事がもらえませんでした。そんな時、当時調布にあったディスコ「コブラフリースク」を訪ねると「面白いじゃないか。来い来い」と2つ返事。そして、ディスコの経営者やスタッフ、お客さんがいっしょになって運営団体「チームコブラ」が誕生しました。現在、ロータリークラブも応援し、調布のジャズライブハウス「ギンズ」を中心に定期開催。年1回グリーンホール小ホールで2500人規模のダンスパーティも開催し、通算で268回!を重ねています。「なおたか〜、元気か」「なおたか〜」とあちこちから声がかかり、「こんなに大きくなって、長く続いてうれしい」と語る安斉さん。曲に合わせて踊りながら歌詞を口ずさむ姿は何とも楽しそうです。



life style

このページでは障がい者の生活の1コマをご紹介します。

撮影:中橋正治

※次号「わくわく9号」は2016年9月に発行予定です。